

# 株式会社デンソー

〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1  
Tel 0566-25-5511 (案内)  
<https://www.denso.com/jp/ja/>  
<https://www.denso.com/global/en/>

日本サイト



グローバル  
サイト



統合報告書



公式  
Facebook



公式  
Instagram



## 地域統括会社

### 北米

DENSO INTERNATIONAL AMERICA, INC.

24777 Denso Drive, Southfield Michigan  
48033 U.S.A.  
Tel +1-248-350-7500  
<https://www.denso.com/us-ca/en/>

### 欧州

DENSO INTERNATIONAL EUROPE B.V.

World Trade Center, Tower I, 4th Floor Strawinskylaan 1865,  
1077 XX, Amsterdam, The Netherlands  
Tel +31-294-493493  
<https://www.denso.com/nl/en/>

### アジア

DENSO INTERNATIONAL ASIA CO., LTD.

888 Moo 1 Bangna-Trad Rd. KM.27.5, T.Bangbo,  
A Bangbo, Samutprakarn 10560 Thailand  
Tel +66-2-315-9500 Fax +66-2-315-9559  
<https://www.denso.com/th/en/>

### 中国

DENSO (CHINA) INVESTMENT CO., LTD.

Room No. 518, The Beijing Fortune Building,  
No. 5 Dong San Huan Bei Lu,  
Chaoyang District, Beijing, 100004, China  
Tel +86-10-6590-8337 Fax +86-10-5758-2781  
<https://www.denso.com/cn/zh/>

DENSO INTERNATIONAL ASIA PTE., LTD.

51 Science Park Road, #01-19 The Aries,  
Science Park II, 117586, Singapore  
Tel +65-67768268 Fax +65-67768698  
<https://www.denso.com/sg/en/>

デンソーは、世界共通目標であるSDGsの達成に取り組んでいます。



# DENSO

Crafting the Core

会社案内





# ZERO

環境と安心の取り組みによって、社会から共感され、  
すべての人に笑顔広がる未来を届けます。

究極のゼロの実現、そしてモビリティ分野だけでなく社会全体へ貢献すべく  
新たな価値の創造に挑戦します。



「環境」「安心」領域での価値創造を通じて、笑顔あふれる未来を届けたい。

この使命のもと、「環境」領域では「カーボンニュートラルな社会」の実現に向け、工場での生産活動だけでなくお届けした製品まで踏み込んで、CO<sub>2</sub>の排出と吸収でプラスマイナス「ゼロ」を、「安心」領域では「交通事故死者ゼロ」の世界の実現を、いずれの領域も究極の「ゼロ」を目指します。

また、環境問題や資源不足など地球規模の課題が一層深刻化する中、循環型社会の実現に向け「モビリティ」から「社会全体」への貢献に広げて価値を届けていくことが私たちの新たな使命であり、モビリティの価値向上に加え、モビリティ以外の領域での新たな事業開拓にも果敢に挑戦していきます。

これからの社会は、クルマがさらに高度化し、クルマと人、クルマと社会が多様な形でつながっていくため、これまで以上に多くの技術を組み合わせ、スピード感を持って、新たな製品やサービスを生み出していく必要があります。私たちは、変化の時代を力強く生き抜いていく会社へと進化し、多くの皆さまと共に新たな価値を創造し続け、「循環」の輪をモビリティから社会全体に広げていきます。

代表取締役会長 有馬浩二

代表取締役社長 林新之助

# DENSO at a Glance デンソー早わかり

## Past

これまでの変遷

### 経営基盤/経営方針

1949年の創業以来、品質のデンソーとして経営基盤を固めつつ、長期方針を羅針盤に経営の舵取りを実施

1949



トヨタ自動車工業から分離独立し、日本電装株式会社を設立

1953



ドイツ・ロバートボッシュ社と電装品に関する技術提携契約を締結

世界に通用する製品づくりを目指し、社外からも積極的に技術を学ぶ。

1956

デンソーの源流となる社是の制定  
創業の精神を将来にわたり守り育てるために制定。

1961



品質管理の最高権威であるデミング賞を受賞

受賞に向けた社員全員参加での取り組みが、今日も続く「品質第一」の思想や風土の礎となる。

1996

社名を株式会社デンソーに変更  
真のグローバル企業を目指し、社名から「日本」を取り、「株式会社デンソー」に変更。

2017

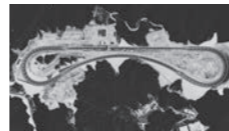
デンソーグループ2030年長期方針を策定  
「地球に、社会に、すべての人に、笑顔広がる未来を届けたい。」をスローガンとして掲げる。

1954



技能養成所を開設  
「モノづくりはヒトづくり」「技術と技能の両輪」の思想は、今日にも受け継がれる。

1984



額田テストコースを開設

部品メーカーとしては早くからテストコースを開設。カーメーカーに匹敵する評価施設は、お客さまの期待を超えた製品性能や品質保証のため。

1968



IC研究室を開設

将来的に自動車部品が電子制御化されることを見越し、早くから社内でICの研究開発を行う。電子関連製品は、現在のデンソーの主力製品のひとつ。

1991

基礎研究所を設立

5～20年先を見据えた将来技術の研究開発を実施。現在の研究分野は、半導体材料からオイル産生微細濾類に至るまで、多岐に渡る。

1966



米国にシカゴ営業所、ロサンゼルス出張所を開設

海外初の営業所の設立は、貿易の自由化など、世界の潮流を見越しての対応。

2004

デンソースピリット

1949年の創業以来培ってきた価値観や信念を明文化し、世界中のデンソー社員で共有したものを。クルマ社会や人々に貢献する原動力や競争力となる、先進、信頼、総習・総力の3つからなる行動指針。

2016

グローバル共通人事制度

本社および海外グループ会社を含めた幹部層約2,300人を対象に、グローバル共通人事制度を導入。個人の発揮能力にフォーカスした世界共通の等級を導入。世界中の人材が本社を含めたグローバル全体の中でキャリアを描くことを可能に。

1972



初の海外生産会社であるニッポンデンソー・オーストラリア、ニッポンデンソー・タイランドを設立

お客さまのニーズに応えるため、世界各地のお客さまの近くでの生産を開始。

### グローバル展開

お客さまのニーズに応えるため早くから世界各国に進出し、生産拠点だけでなく、R&D拠点多くの国で展開

## Present

数字で見るデンソー

## Future

未来への思い

全従業員数

16.5万人

連結売上収益

6.4兆円

世界初製品

130以上

特許保有件数

4.1万件

技能五輪国際大会  
総獲得メダル数

77個

グローバル拠点

35の国と地域

海外売上比率

56%

2023年3月31日現在

環境・安心分野で  
究極の「ゼロ」を  
目指す

CO<sub>2</sub>±ゼロ

0

交通事故  
死亡者ゼロ



# 環境

Green

## 2035年カーボンニュートラルを目指す

デンソーはこれまでの環境への取り組みをさらに進めることで、2035年という近い未来での生産活動におけるカーボンニュートラルの実現を目指します。そのために、「グリーンイノベーション基金\*」なども活用しながら、「モノづくり」「モビリティ製品」「エネルギー利用」の3つの領域で取り組みを進めています。

\*グリーンイノベーション基金：グリーン成長戦略において実行計画を策定している重点分野で、政策効果が大きくかつ社会実装までを見据えて長期間の継続支援が必要な領域に対するNEDOによる支援施策

### モノづくり

#### 工場における完全なカーボンニュートラルを達成

太陽光などの再生可能エネルギーを利用し、また製造工程を効率化することで、CO<sub>2</sub>排出量を減少させていきます。さらに生産の過程で発生するCO<sub>2</sub>は回収し、エネルギーとして再利用することで、工場におけるクレジットなしでの完全なカーボンニュートラルを目指します。



### モビリティ製品

#### クルマの電動化に貢献し、CO<sub>2</sub>を可能な限り削減

電動化製品の進化により、HEV・BEV・FCEVなどの電動車普及に貢献します。また、自動車業界で培った電動化技術を空のモビリティにも応用し、全方位でCO<sub>2</sub>排出量を大きく減少させます。



### エネルギー利用

#### 再エネを有効活用する技術を開発・普及し、エネルギー循環社会を実現

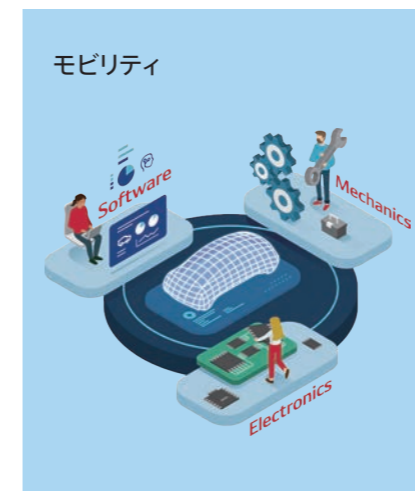
場所や時間の制約なくエネルギーを高効率に「ためる」「もどす」技術を確認し、世の中に広く普及させることで、エネルギー循環社会の実現に貢献します。



## TOPIC 環境

## モビリティからインダストリー、そしてソサエティまで、カーボンニュートラル実現に貢献するデンソーのビジネスモデル

デンソーは環境にやさしいクルマづくりはもちろん、モビリティの枠組みを超え、様々な業界の仲間とともに、モビリティを含めたインダストリー（モノづくり）やその先のソサエティ全体のカーボンニュートラル実現に貢献したいと考えています。そのためには、個々のモビリティの中のエネルギーだけでなく、インダストリー、そしてソサエティ全体のエネルギーを俯瞰的に捉え、効率的に使うエネルギーマネジメントが重要です。そこでデンソーは、創業以来モビリティやインダストリーで培った技術をソサエティに拡大することで、ソサエティ全体のカーボンニュートラル実現に貢献するビジネスを目指します。



1. メカ・エレクトロニクス・ソフトウェアの三位一体のシステム構築力を活かし、モビリティの最適なエネルギーマネジメントを実現

2. 革新的な省エネ技術と、再エネ活用、グリーンエネルギーの導入によりデンソー工場のカーボンニュートラルを実現

3. パートナー企業とともに、デンソーのエネルギー利活用技術などを用いて、カーボンニュートラル工場を拡大

4. モビリティやインダストリーで培った技術を磨き、ソサエティ領域に応用することで、モビリティとインダストリー、そして社会インフラを連携させたエネルギーマネジメントや新事業で新たな価値を提供

# 安心

Peace of mind

## 社会に「安心」を提供するリーディングカンパニーを目指す

人々の幸せに貢献する企業を目指すデンソーにとって、事業活動を通じた社会課題の解決により、社会に「安心」を提供することは使命でもあります。社会に「安心」を提供するリーディングカンパニーとなるべく、安心の領域でデンソーが貢献する3つの柱を以下の通り定義しました。

### 交通事故 死亡者ゼロ

「深み」と「広がり」の取り組みを通じ、安全製品を普及させ、交通事故死亡者のいない自由な移動を実現「交通事故死亡者ゼロ」を目指し、技術の先端をひた走る「深み」と、多くのクルマに安全製品を普及させる「広がり」の二方向で取り組みを進めます。「深み」では、安全製品をさらに進化させ、より多くの先端モビリティへの搭載を実現。「広がり」では、価格面でも魅力のある安全製品の実現と後付け製品の拡充を進めます。

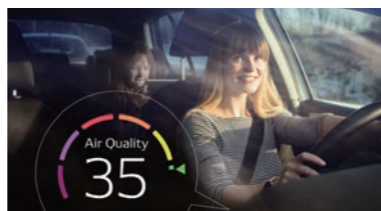


### 快適空間

#### 空間に対する技術を高め、心安らく快適な空間を創出

自動運転の進展に伴い、クルマはただの移動手段ではなく「移動できるプライベート空間」としてのニーズが高まっています。デンソーは、車内の安心な「空気質」\*を実現し、快適空間をつくります。

\*AQI (Air Quality Index) 50未満



### 働く人の 支援

#### モビリティ領域で培った技術を活かし、人を支援し、人の可能性を広げる社会を構築

様々な業界での労働人口減少は、大きな社会課題の一つです。デンソーは自動化やICTなど、モビリティ領域で培った技術を活用することで、働く人を支援し、誰もが安心してチャレンジできる社会を実現します。



## 安全製品のさらなる進化と普及に向けた「Global Safety Package 3」の開発

安心戦略で掲げる「交通事故死亡者ゼロ」の社会を実現するためには、安全製品をさらに進化させ最先端の技術を車両に搭載していくこと、また価格面でも魅力ある製品を開発し、より多くの車両に普及させることが重要です。

「Global Safety Package 3」(以下「GSP3」)は、予防安全・運転支援シーンの拡大と、小型・低コストの両立をコンセプトに開発されました。



ミリ波レーダー



画像センサー

### 車両の安全性能の向上に貢献

GSPは、電波を使って車両や道路などの形状を検知する「ミリ波レーダー」と、カメラで自車の前方環境を検知する「画像センサー」の情報を最適に組み合わせることで、安全な運転支援を可能にするシステムです。そして今回、その3世代目となるGSP3を新たに開発しました。デンソーは、ハードウェアからソフトウェアまで扱う総合システムサプライヤーとして、それぞれの専門家が集まり、それぞれの立場で課題を抽出し解決策を考えることで、今回の製品開発を実現しました。今後も高度運転支援に関する技術開発を推進し、ドライバーや歩行者をはじめとするすべての人にとって、安全で自由な移動の実現に取り組んでいきます。

## 事業の概要

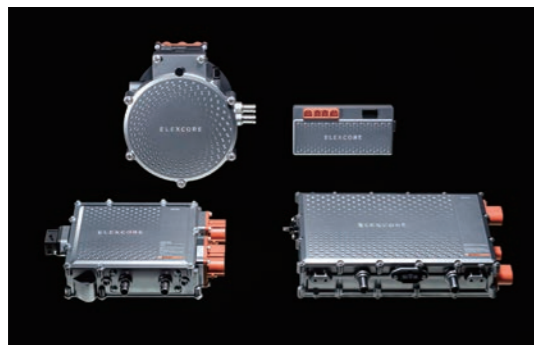
デンソーは、自動車関連分野を中心とした幅広い領域において7つの事業を展開しています。未来のモビリティ社会のニーズに応える新しい価値を生み出していくための事業ポートフォリオを構築し、7つの事業それぞれにおいてモビリティ社会の可能性を広げていくための創出価値を最大化できるよう取り組んでいます。

今後は変化の激しい環境下でも持続的な成長を実現できるよう、事業ポートフォリオの入れ替えも進めていきます。

	セグメント	貢献分野	売上収益（比率）
車 載 事 業	エレクトリフィケーションシステム	環境	1兆円 (16.3%)
	パワートレインシステム	環境	1兆5千億円 (23.3%)
	サーマルシステム	環境 安心	1兆6千億円 (24.8%)
	モビリティエレクトロニクス	環境 安心	1兆6千億円 (25.2%)
	先進デバイス	環境 安心	4千億円 (5.6%)
非 車 載 事 業	FA（ファクトリーオートメーション） ..... フードバリューチェーン	環境 安心	2千億円 (2.8%)

# エレクトリフィケーションシステム

環境



豊かな環境と快適な移動をかなえ、すべてのモビリティの電動化を支えます。

地球にやさしく、より快適に移動できる電動車システムを提供するため、電動化技術の開発と実績を積み上げ、電動車に欠かせない主要製品の高性能化や小型化、省燃費を実現してきました。今後は、デンソールの幅広い事業領域を活かし、車内のあらゆるシステムや製品をつなぎ、エネルギーを効率よくマネジメントすることで、さらなる燃費性能の向上や省電力化に貢献していきます。

- 事業内容
- 電動車の駆動・電源システム、航空機用推進システムなどの開発・製造
  - 電動パワーステアリング、制御ブレーキシステム用モーター、ECUの開発・製造
  - ワイパーシステム、パワーウィンドウモーター、エンジン制御用モーター、プロワーファンなど、小型モーターシステム製品の開発・製造

## 特長

### システム構築力

電動化に伴い車両の環境性能向上の重要性はますます高まっています。その中心部である電駆動システムの構成部品をすべて有している当社は、ハードウェアの使い方・使われ方を熟知し、システムトータルで性能や信頼性を向上させる「システム構築力」で多様化する市場のニーズに応えます。

### グローバルな生産供給体制

日本を含め世界19カ国に約50拠点を構え、世界中のお客さまに高品質な製品を供給しています。こういった既存資産を最大活用し、2019年にデンソー・マニュファクチャリング・テネシー（米国）、2021年には天津電装電機有限公司（中国）にて電動化製品の生産を開始、今後も欧州やインドにおいて加速する電動化に対する生産供給の構えを強化します。

### 新たな時代に向けたモノづくり

安城製作所内に設立した「電動開発センター」では、併設する電動化工場の量産ラインでCO<sub>2</sub>循環プラントやCO<sub>2</sub>排出を抑制する省エネ環境ラインの実証を進めるなど、次世代の製造テクノロジーをスピーディかつ効率的に開発・導入しています。

# パワートレインシステム

環境



クルマ本来の走るよこびと環境性能の両立。その背反する課題へのソリューションを提供します。

地球環境への負荷を最小限にとどめ、燃料多様化や年々強化される規制への対応をサポートし、高品質なシステムとコンポーネントを供給するとともに、新たな価値創造・提供にも努め、社会に貢献します。

- 事業内容
- 燃焼から吸気・排気系までの一貫したガソリン・ディーゼルエンジンマネジメントシステムの開発・製造
  - VCT\*・排気センサーなどのエンジン関連製品、油圧制御バルブなどの動弁系製品の開発・製造

\* VCT : Variable Cam Timing

## 特長

### パワートレインの進化を世界初製品でリードしてきた研究開発力

クルマの環境性能の追求を通じ、ディーゼル内燃機関連の燃料噴射製品「コモンレールシステム」などの様々な世界初製品を量産化してきました。現有のコア技術と開発力は、水素やバイオ燃料活用といったカーボンニュートラルなパワートレインの選択肢拡大にも貢献することができます。

### クルマが安心・安全に「走行」できる、信頼性の高いモノづくり技術

クルマの重要機能である「走行」を担うため、ミクロンオーダーの高難度かつ精密な加工、高速組付技術や、材料調製から成形・焼成まで一貫して対応できる信頼性の高いモノづくり技術を磨き上げてきました。長年培ってきた技能・モノづくりのノウハウと、ロボット・AIなどの最新技術やデジタルを融合し、さらなる技術深化を図ります。

### パワートレインに精通する人材が、有機的に連携できる組織力

過酷な使用環境に耐え、厳しい環境規制をクリアできるクルマをカーメーカーとともにつくり出すため、多岐にわたる要素技術・技能ごとのプロフェッショナルが車両視点で連携し、システムからコンポーネントまで通して専門性を発揮できる高い組織力を備えています。

# サーマルシステム



モビリティ社会のあらゆる熱課題を解決し、地球も人も心地よい社会を実現します。

カーボンニュートラル社会・CASE時代の到来という大きな変革期に直面する自動車業界。デンソーは、グローバルNo.1のサーマルシステムサプライヤーとしての強みを最大限発揮し、航続距離延長などのBEVの課題を解決する熱マネジメントシステム・快適車内空間をつくる空気質製品を通じ、未来の社会づくりに貢献します。

- 事業内容
- 乗用車・商用車エアコンシステムの開発・製造
  - 快適空間を実現する空気質製品などの開発・製造
  - ラジエーター、インバーター冷却器など冷却用製品の開発・製造
  - 熱マネジメントシステム・ヒートポンプシステムの開発・製造

## 特長

熱マネジメント技術	量から質のモノづくりへ	グローバルネットワーク
BEV普及の3つの課題、航続距離延長・電池劣化抑制・充電時間短縮。それらを解決するには、空調の省電力化やバッテリーの温度制御など、多様な熱課題の解決が不可欠です。当社の熱制御技術と世界初製品群、それらを組み合わせるシステム制御により、車両全体の熱をマネジメントし最適ソリューションを提供します。	設計から工程まで標準化した高度な自動化ライン、中間在庫ゼロの同期直結生産と、モノづくりを進化させながら供給責任を果たしてきました。今後、熱マネジメントシステムにより製品が多様化・複雑化していく中、これまでの「標準化・大量生産」から「多品種・少量生産」へとシフトし、量に依存しないモノづくりへとさらなる進化を遂げていきます。	1972年のニッポンデンソー・タイヤランド設立を皮切りに、サーマルグループは世界26カ国50カ所以上の生産拠点和9カ所のテクニカルセンターを有し、世界中のお客さまのニーズに応えてきました。50年間で築き上げた強固なネットワークを活かし、CASE時代の新たな課題をお客さまとともに解決していきます。

# モビリティエレクトロニクス



「すべての人が安心して快適に移動できる社会 (Quality of Mobility)」を実現します。

CASEの進展によって引き起こされる社会の進化と変化およびユーザーニーズを的確に捉え、エレクトロニクス技術（センサー、半導体、ECU）とソフトウェア技術で時代に適応した製品を投入し続けることによって、カーボンニュートラルと交通事故死者ゼロの実現に貢献していきます。

- 事業内容
- エンジンECU、HEV ECU、BEV ECU、ボデー ECUなどの環境系製品の開発・製造
  - HCU<sup>\*1</sup>、メーター、HUD<sup>\*2</sup>、CID<sup>\*3</sup>、ETC<sup>\*4</sup>車載器、路車間・車車間通信機、画像センサー、ミリ波レーダー、ソナーセンサー、自動運転ECU、エアバッグ用センサー & ECU、DSM<sup>\*5</sup>などの安心・安全系製品の開発・製造
  - モビリティ全体の電子システム、プラットフォームの開発・提供

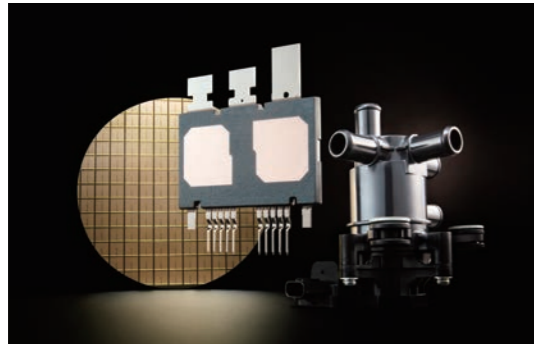
\*1. HCU : Human Machine Interface Control Unit \*2. HUD : Head-Up Display \*3. CID : Center Information Display  
\*4. ETC : Electronic Toll Collection System \*5. DSM : Driver Status Monitor

## 特長

クルマ全体視点からの大規模統合システムの実現力	車載製品で培ってきた信頼性と先進性を備えた製品の開発力	グローバルネットワーク
CASE時代の電子システムへのニーズは、パワートレイン、ボデー、シャーシ、コックピット、ADASなどの単一領域の制御システムに加え、それらを協調させた大規模統合システムへと進化しています。デンソーはこれらすべてのシステムを手掛けており、その幅広い技術力でクルマ全体視点の魅力ある製品を実現します。	車載製品は厳しい環境と制約のもとでの高い品質と性能が要求されます。クルマの電子化が始まった当初から長年にわたる車載電子製品の事業活動で積み上げたクルマの知見と最新のエレクトロニクス、ソフトウェア技術を融合させ、競争力ある製品を開発します。	当社には、世界中のカーメーカーと数々の難関をともに乗り越えて築き上げてきた人的資産、知的資産、グローバル生産体制があります。それらを強みとして、CASE関連技術を磨いて、様々なソリューションをカーメーカーに提供し続けることで、環境にやさしく、安心・安全なモビリティ社会の実現に貢献していきます。



# 先進デバイス



モビリティ領域にとどまらず、  
社会とお客さまの抱える課題を  
解決する事業を創出・拡大していきます。

技術軸ではなく、社会とお客さまへの貢献を軸に再編された組織として、センシング・アクチュエーションの連携、垂直統合の強みを活かした半導体によるシステム価値向上を推進します。これらを通して、新たなデバイス・システムの創出や電動化市場の拡大に対するQCD全方位での信頼獲得を目指します。

- 事業内容
- トランスミッション油圧制御バルブ、シフトパイワイヤなどの駆動系製品の開発・製造
  - BEV / エンジン冷却水量制御弁などのエネルギーマネジメント製品の開発・製造
  - 車載用パワー半導体、半導体センサー、カスタムICなどのマイクロエレクトロニクスデバイスの開発・製造

## 特長

<b>センシング&amp;アクチュエーションによる新たな価値創出力</b>	<b>半導体の内製に加え、社外生産委託やパートナー連携を牽引するリーダーシップ</b>	<b>新領域製品の変種変量に耐えうる高い生産技術力とそれを支える現場力</b>
事業グループ内で半導体（脳）、センシング（目）に加え、アクチュエーション（手・足）のコア技術を融合し、新しいデバイスやシステムを柔軟な発想で創出することで、お客さまの「あったら良いな」を実現する課題解決型の開発を可能にします。	電動化市場の拡大に向けて世界初技術を搭載したキーデバイスとなるSiおよびSiCパワー半導体を内製するだけでなく、供給基盤とコスト競争力の強化に必要なサプライチェーンをリードしています。	人財育成や若手抜擢を通じて競争力ある新領域製品の応用範囲を広げると同時に、新製品ゆえに起きうる数量変動に対して、ラインの形・場所を変えて常に最適編成・最適配置できる生産システムを構築すべく、デジタルツイン・協働ロボットを活用します。

# FA(ファクトリーオートメーション)



モノづくり産業の生産性向上と  
社会生活の質向上に貢献します。

環境面における「カーボンニュートラルなモノづくり」、安心面における「人の可能性を広げる社会構築」を事業の理念と掲げ、モノづくりにおけるお客さまの困りごとに真摯に向き合い、お客さまにとっての最適な解決策となる「ソリューション・パッケージ」を提供することで、産業・社会の発展に幅広く貢献していきます。

- 事業内容
- 自動化設備・モジュール、産業用ロボットに代表される産業向け機器の開発・製造
  - ハンディターミナル、QR、RFID、決済、認識ソリューションなどの社会向け機器の開発・製造およびサービスの提供（入退室管理システム、食堂自動精算システム、顔認証システム ほか）

## 特長

<b>グローバル130工場の製造現場で徹底的に磨き上げてきた生産財</b>	<b>70年以上にわたりデンソー製品を支えてきたモノづくりのノウハウ</b>	<b>デンソーが開発したQRコードを用いた安心・安全な社会ソリューション</b>
自動車部品生産ラインで磨き上げてきた高品質・高耐久な設備と、ロボットやセンサーなどコアなFA機器を用いて、機器単体から工程・モジュール単位へと領域を広げながら、産業・社会の生産性向上に貢献します。	フレキシブルで無駄のないモノづくりのノウハウと自動化技術（リーン・オートメーション）を用いて、労働力不足・カーボンニュートラル・DXといった製造業が直面する深刻な課題を解決します。	国際基準（ISO/IEC18004）を取得した2000年以降も進化を続けるQRコードと、その読み取り技術を用いて、今後は外部アイデアも取り入れながら、新たな領域・用途に向けた価値を創出します。

# フードバリューチェーン

環境

安心



技術と発想で新たな価値を提供し、  
すべての人が安心・安全に暮らせる社会に  
貢献します。

人々の暮らしに欠かせない食において、パートナーとともにフードバリューチェーン全体を見据え、「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」食の安心・安全を届けるソリューションを世界のあらゆる地域に提供していきます。

## 事業内容

- 施設園芸ターンキーソリューション\*（ハウス資材・機器・栽培コンサルティング・クラウドサービス）の製造・販売・アフターサービス
- 車載用冷凍機、小型モバイル冷凍機の製造・販売・アフターサービス
- 食流通におけるデジタル化、データ連携サービスのシステム構築・販売

\*農業に携わるすべての人が安定的に農作物を生産できるよう、最適に組み合わせられた製品・サービス群

## 特長

担い手不足や気候変動に対し、  
安定的に栽培できる施設園芸ハウス

クルマで培ったモノづくり技術を農業生産と融合させることで、農作物が安定して栽培できる環境を空調技術で支え、あらゆる人が働きやすい環境になるように自動化技術を導入し、生産性が高く、持続的に成長できる施設園芸ソリューションをグローバルに提供します。

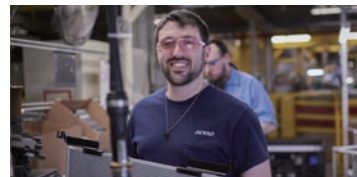
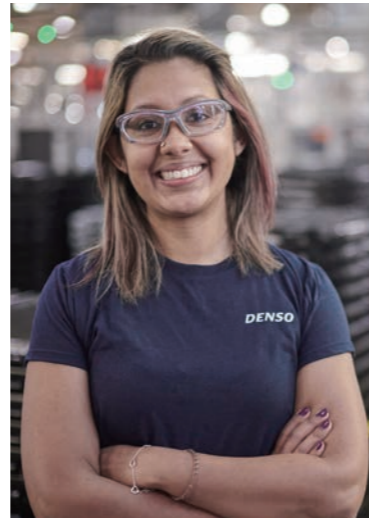
ドライバー不足や配送多様化に対し、  
高品質で多彩な車載用冷凍機

1972年の車載用冷凍機の事業開始から累計20万台以上の販売実績で培った高品質・高効率なモノづくりにこだわり、幅広い製品バリエーションを持つトラック冷凍機だけでなく、近年多様化する小口配送においても、一般ドライバーや乗用車でも柔軟に配送可能な小型モバイル冷凍機を提供します。

変化する食流通ニーズに対し、  
新たな流通DXソリューション

QRコード・RFID技術を活用し、多様な食品情報をデジタル化することで、消費者の安心・安全ニーズに応える生産から販売までの食流通情報の見える化や、非効率な流通の需給最適化や在庫適正化につながる、一貫通貫の食流通プラットフォームを提供します。

新たな価値を生む基盤



デンソーには、70年以上の歩みの中で、独自に培ってきた強みがあります。これらの強みは、創業以来受け継がれ、世界中の従業員の行動に浸透しているDNA（デンソースピリット）によって培われ、相互に連携し、デンソーの成長を牽引してきました。事業環境が変化する中でも、デンソーにしかつくり出すことができない価値を生む原動力として、今後も強化していきます。

## ヒトづくり

「最高の製品は、最高の人によってつくられる」という考えのもと、DNAであるデンソースピリットを従業員一人ひとりに浸透させ、変化を恐れず、直面する課題に向き合いながら新しい技術や製品を生み出す人財を育成しています。



### いかなる状況であっても新しいテーマに果敢に挑む

先進、信頼、そして総習・総力の精神。デンソースピリットは1949年の創業以来培ってきた価値観や信念を明文化し、全社員と共有したものです。モビリティ社会や人々に貢献する原動力、競争力となる行動指針として、世界中のデンソー社員約17万人の行動に浸透しています。熱い想いを原動力に、社員一人ひとりが日々の業務を実践し、激動の時代でも変革のスピードを加速させます。



### 多様な人財の活躍を促進するグローバル共通人事制度

本社および海外グループ会社を含めた幹部層を対象に、グローバル共通人事制度を導入しています。当制度では、個人の発揮能力にフォーカスした世界共通の等級（グローバル職能資格）を導入し、同じ基準で評価・育成することで、世界中の人財がグローバル全体の中でキャリアを描くことを可能にしました。

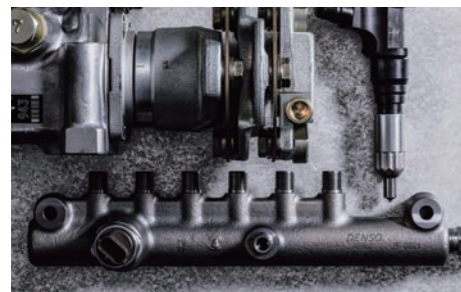


### 高度な技能者の育成は企業成長の生命線

デンソーでは高度な技術者・技能者を育成するため、1954年に開設した「技能養成所」の伝統を受け継ぎ、「デンソー工業学園」（工業高校・高等専門課程）を運営しています。国内グループ会社のほか、一部のサプライヤーさま、海外拠点を対象に育成支援を行い、そこで育った若手技能者の中からは世界最高レベルの技を競う技能五輪国際大会のメダリストが多数誕生しています。

## 研究開発

世界最先端のクルマづくりを支えてきた研究開発の蓄積により、化学、物理学、電子工学、ソフトウェアなどを含む幅広い技術を駆使し、競争力のある製品を生み出すことを可能にしています。



### 130以上の世界初製品を生み出す

「新しい価値の創造を通じて人々の幸福に貢献する」ことを基本理念として、デンソーは社会の変化を鋭く捉え、創業以来世界初にこだわった製品開発を行ってきました。ガスインジェクションヒートポンプ、コモンレール、ミリ波レーダー、エジェクタなど130以上の世界初製品を開発し、成長の原動力としてきました。



### 世界7極のテクニカルセンターとイノベーション震源地のラボ

デンソーは、世界7極にテクニカルセンターを設置。また、カナダ・イスラエル・シリコンバレーなどイノベーションの震源地にもラボを構えています。デンソーは、多様化する地域のニーズをいち早く開発に取り込み、競争力ある製品とし、お客さまに提供する体制を構築しています。



### 未来のモビリティ社会を予測し先回りする先端研究

先端技術研究所は、1991年の開設以来、「革新技術の創出による先進的なクルマ社会への貢献」を使命とし、半導体、エレクトロニクス、材料、AI、人間工学などの先端技術を先導し、技術と技能の融合で、社会課題の解決につながる革新技術を創出しています。

## モノづくり

技術と技能を融合させたモノづくりの力により、革新的な世界初のアイデアを次々と形にしてきました。自前の高い生産技術によって、高効率、高品質という付加価値も生み出しています。高い精度が求められる半導体も自らつくり出します。



### 世界初・世界一製品の量産を実現させる

1,000分の1mmにこだわる世界トップクラスの微細な加工や、生産効率も品質も向上する組付けライン。デンソーは最先端の生産要素技術・加工技術・計測技術の研究や、それらを応用した生産ライン・システム開発などを行うことで、世界最高レベルの製品性能と品質を支えています。



### 世界中の仲間を情報でつなぐ

人、モノ、設備から得た多くのデータを、「設備不具合の予兆」「熟練者のノウハウ」などの有益な情報に変換し、その情報を、欲しい人に、欲しい時に、欲しい形で提供することで、改善活動の加速、人の成長に貢献しています。グローバルで130の工場をつなぎ、グループ全体での生産性向上を目指しています。



### 1個の不良、1秒のロスにこだわる

工場長が先頭に立ち、全員参加で取り組む「EF\*活動」。「スルーで見た改善」「生まれの良いラインづくり」を進めることで問題点が分かりやすい工場をつくり、その顕在化した問題点を全員で改善し続けることで、改善に強い人材を育成し、世界トップクラスの競争力を実現します。

\*EF: Excellent Factory

# サステナビリティ 経営

デンソーにとってのサステナビリティ経営<sup>\*1</sup>は、SDGs<sup>\*2</sup>等の視点を経営戦略に取り込み、その実践を通して企業価値向上を図っていくことを目的としています。

今後もサステナビリティ経営を実践し、社会の持続的成長の実現を通じて、デンソーの企業価値向上を目指していきます。

\*1. 持続可能な社会づくりに貢献する経営 \*2. SDGs : Sustainable Development Goals



## 加速するサステナビリティ経営

社是の一つ、「最善の品質とサービスを以て社会に奉仕す」は、創業当時より時代ごとの変化に先んじて革新に挑み、品質とサービスを通じて社会課題の解決を図ることによって社会に求められ続けようとするデンソーの姿勢を明示しています。これは、現在加速させているサステナビリティ経営の考え方の根幹でもあります。そして、デンソーグループの社員一人ひとりが、社会やステークホルダーとのつながりにおいて、社是やデンソー基本理念に沿ったグローバル企業としてふさわしい行動を実践できるように「デンソーグループサステナビリティ方針」を定めました。

## デンソーグループ2030年長期方針

デンソーは、サステナビリティ経営を推進するにあたり2030年の目指す姿として「デンソーグループ2030年長期方針」を策定しました。従来注力している「環境」「安心」の提供価値を最大化することに加え、新たに「共感」を掲げ、様々なステークホルダーの方に共感していただける新たな価値を社会に提供していきたいと考えています。

## サステナビリティ経営推進体制

デンソーでは、経営戦略本部が全社のサステナビリティ経営推進機能を担っており、方針や活動計画の立案、各部門の活動支援・フォローアップ、社内外コミュニケーションなどを行っています。

サステナビリティ経営の方向付けや全社活動状況のフォローアップなどは、取締役会監督のもと、会社の公式会議体（経営審議会など）で審議・報告を行っています。個別のサステナビリティテーマについては、主管部門が各専門委員会にて審議を受け、関係部門と連携して活動を推進しています。

## 事業の概況

## 会社概要

2023年3月31日現在

社名	株式会社デンソー
設立	1949年12月16日
本社所在地	〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1
資本金	1,875億円
売上収益 <sup>*1</sup>	連結：6兆4,013億円
営業利益	連結：4,261億円
当期利益 <sup>*2</sup>	連結：3,146億円
従業員数 <sup>*3</sup>	連結：164,572人 単独：44,758人
連結子会社数	190社 (日本59、北米20、欧州27、アジア77、その他7)
持分法適用関連会社数	83社 (日本22、北米11、欧州18、アジア28、その他4)
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで

\*1. 外部顧客に対するものです

\*2. 親会社の所有者に帰属

\*3. 就業人員（連結会社への出向者を除き、連結会社からの出向者を含む）であり、臨時雇用者数は含んでいません

## 主な拠点

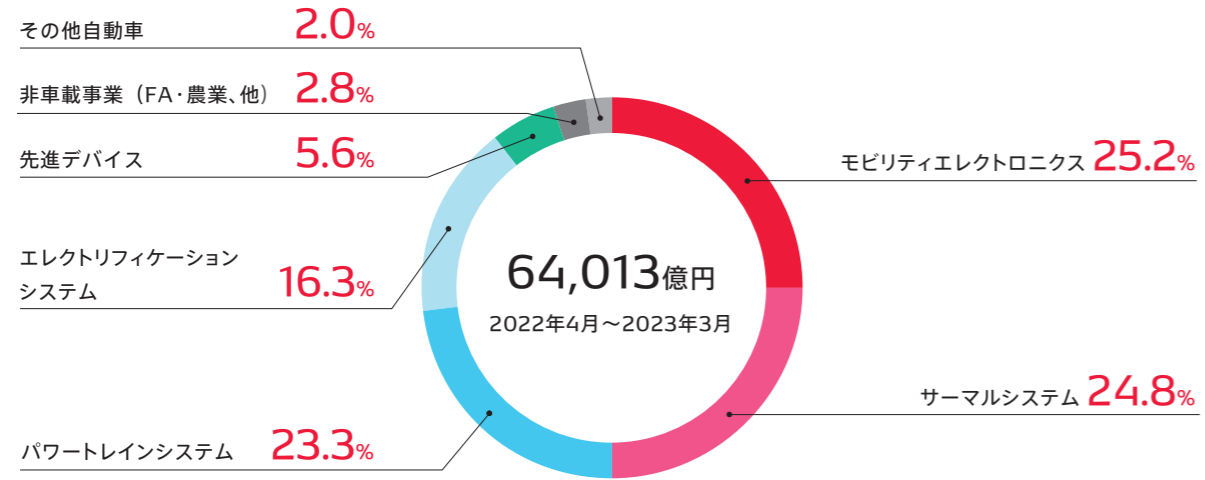
2023年4月1日現在

本社・工場・研究所	従業員数	主な事業内容
本社	12,581	-
安城製作所	5,766	スターター、オルタネーター、インバーター、モータージェネレーター、パワーステアリングモーターの製造
西尾製作所	7,682	カーエアコン、ラジエーター、電子制御式ディーゼル・ガソリン燃料噴射装置の製造
高棚製作所	3,755	メーター、ディスプレイ、ミリ波レーダー、画像センサー、パワーモジュール、各種センサーの製造
湖西製作所	3,838	ワイパーシステム、パワーウインドウモーターなどの自動車用小型モーターの製造
大安製作所	5,240	点火系製品、先進安全関係製品、動弁系製品、駆動系製品、吸排気系製品の製造
幸田製作所	3,875	半導体ウエハー、IC、電子制御製品の製造
豊橋製作所	1,198	カーエアコン、燃料電池車用ウォーターポンプ、サーボモーターモジュール、自然冷媒CO <sub>2</sub> 家庭用ヒートポンプ給湯機の製造
広瀬製作所	1,254	インバーター、ECU、パワー半導体の製造
阿久比製作所	811	生産設備の製造
豊橋東製作所	808	ブロワーモーター、クーリングファンモーターなど自動車用小型モーターの製造
善明製作所	1,873	電子制御式ディーゼル・ガソリン燃料噴射装置の製造
先端技術研究所	224	先端機能材料、AI、人間工学などの研究
Global R&D Tokyo	199	高度運転支援、コネクティッド分野、車載電子システム分野の研究開発
Global R&D Tokyo, Haneda	109	自動運転分野の研究開発・実証
額田テストセンター	30	実車走行試験
大府技術研修所	20	技術者育成施策の企画、構築と推進
新横浜イノベーションラボ	16	クラウドサービスの技術開発

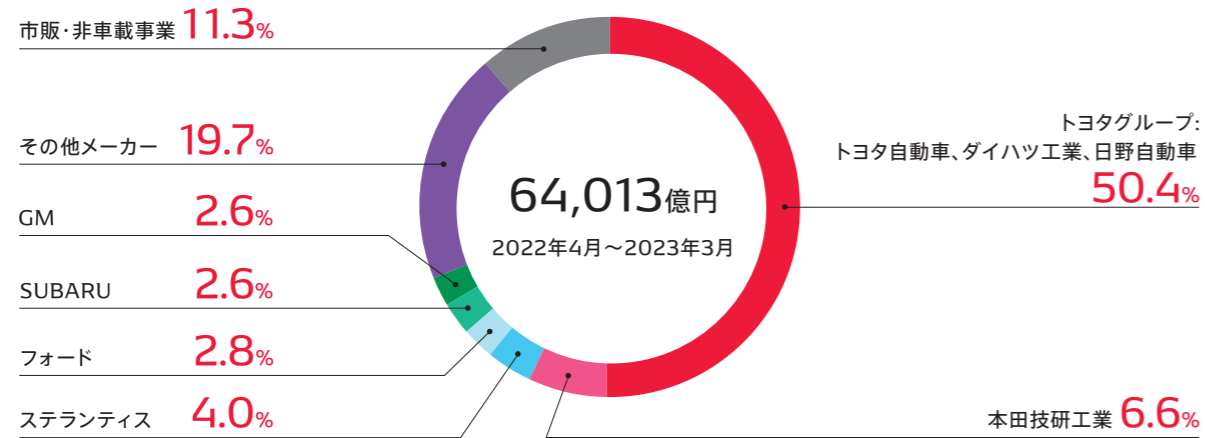
支社・支店・事業所				
東京支社	大阪支店	岩手事業所	室町事業所	D-Square 事業所
東京支店	広島支店	神戸事業所	高松事業所	
東京支店 宇都宮オフィス	名古屋オフィス	名古屋南事業所	港北事業所	

# 財務データ

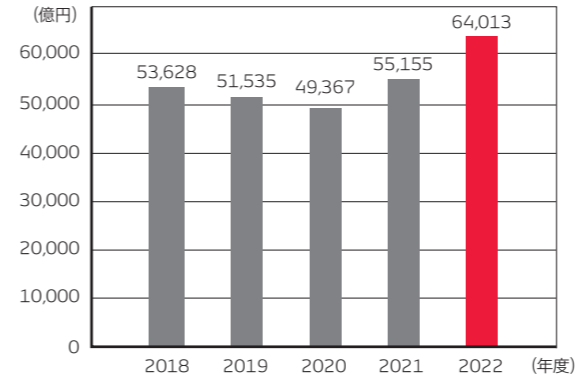
## 製品別売上収益



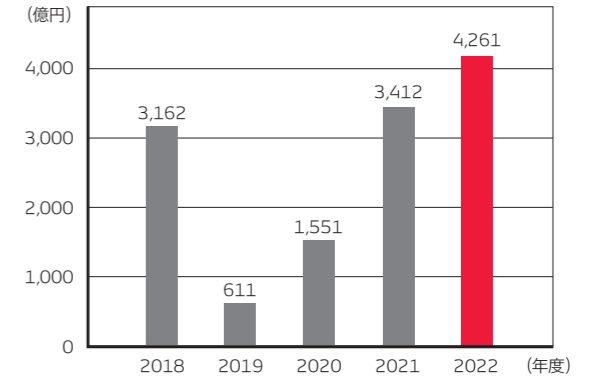
## 得意先別売上収益



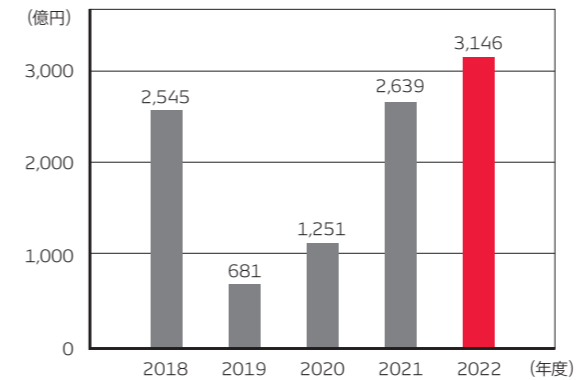
## 売上収益



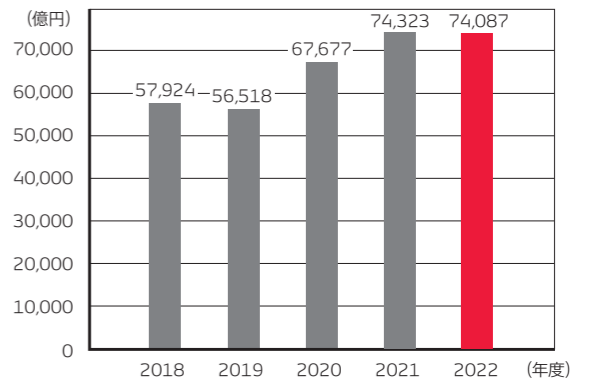
## 営業利益



## 当期利益



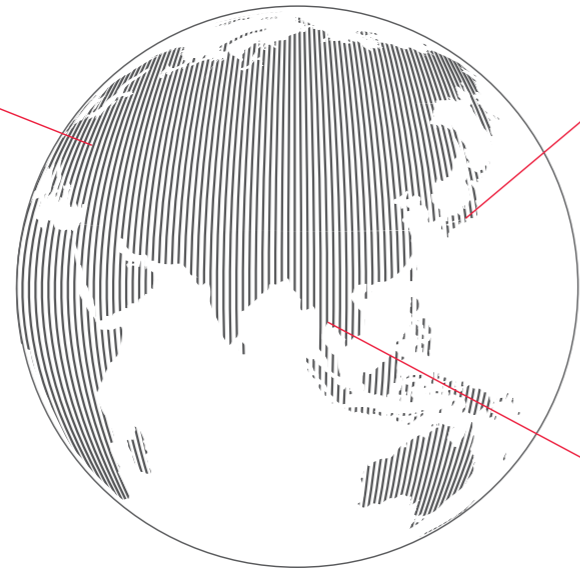
## 資産合計



# グローバルネットワーク

2023年3月31日現在

**欧州**  
 拠点数  
**27社**  
 従業員数  
**14,142人**  
 売上収益  
**6,856億円**



**日本**  
 拠点数  
**60社**  
 従業員数  
**79,304人**  
 売上収益  
**3兆7,058億円**

**アジア**  
 拠点数  
**77社**  
 従業員数  
**45,568人**  
 売上収益  
**1兆9,317億円**

**北米**  
 拠点数  
**20社**  
 従業員数  
**22,722人**  
 売上収益  
**1兆5,041億円**

**その他**  
 拠点数  
**7社**  
 従業員数  
**2,836人**  
 売上収益  
**1,012億円**

## 地域別売上収益

